

Hem21 NEWS VOL.5 2007.8

財団法人
ひょうご震災記念21世紀研究機構
ニュース

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Institute の略称です。

CONTENTS

- 1・2▶ 21世紀研究シンポジウムを開催
- 3▶ 研究成果の報告
(人と防災未来センター)
- 4▶ 新潟県中越沖地震
現地支援活動①
- 5▶ 新潟県中越沖地震
現地支援活動②
- 5▶ HAT神戸掲示板
- 6▶ 情報ひろば

事務局

研究調査本部

人と防災未来センター

学術交流本部

こころのケアセンター

21世紀研究シンポジウム 「東アジアと共に生きる21世紀の日本」を開催

日本と中国の関係強化へ 具体的展望を語り合う

21世紀の諸課題について幅広い観点から議論を深める「21世紀研究シンポジウム」を、7月6日に兵庫県立美術館において開催しました。「東アジアと共に生きる21世紀の日本」をテーマに、研究者や県民など約250人が参加。9月に神戸市で開催される世界華商大会に先立ち、専門家が多角的な視点から日中間の現状について分析・紹介し、アジア全体のために、両国がパートナーとしてよりよい関係を築いていく必要性を語りました。



▲ 貝原俊民 理事長

冒頭に、当機構の貝原俊民理事長が「兵庫県は古くから経済的、人的に中国と深いかわりをもってきた。阪神・淡路大震災でも兵庫県民と華僑を含む外国人県民が協力して復興に立ち向かった。この経験を踏まえ、当機構もアジアの各地域とともに生きるということの一つの大きな基本戦略として深く研究していく必要がある」と力説。続いて、来賓の齋藤富雄副知事が21世紀の諸

問題を解決するうえで中国と協力する意義を語りました。

シンポジウムの前半は、中国・上海の樊 勇明教授(復旦大学日本研究センター)による、「中国における地域経済発展と日本」と題した基調講演が行われました。後半は、日中関係に造詣が深い有識者4人を迎え、高橋克秀神戸大学准教授をコーディネーターに、多角的な視点から日中間経済の現状と展望についてパネルディスカッションを実施。両国のさらなる経済連携にむけた方向性などとともに、政治的課題や民間交流などのあり方についても意見が交わられました。

詳細は、次頁で紹介します。

出席者

基調講演

樊 勇明(ファン・ヨンミン)教授
(復旦大学日本研究センター)

パネルディスカッション

[コーディネーター]

高橋克秀准教授
(神戸大学大学院経済学研究科)

[パネリスト]

深川由起子教授
(早稲田大学政治経済学術院)

鄭 劍豪(チュン・チェンハオ)氏
(劍豪総研株式会社 取締役会長)

谷野作太郎氏
(元駐中国大使・財団法人日中友好会館副会長)

五百旗頭 真氏
(ひょうご震災記念21世紀研究機構
副理事長兼研究調査本部長)

21世紀研究シンポジウム「東アジアと共に生きる21世紀の日本」要旨

発展続ける中国 日本の経験と協力が鍵に



▲ 樊勇明教授

「中国における地域経済発展と日本」

基調講演

樊勇明教授(復旦大学日本研究センター)は、中国が少なくとも7%台の経済成長率を今後とも維持するという見通しを語りつつ、高度経済成長がもたらすものとして、環境汚染、インフレ問題、不動産や株価の高騰、所得格差等の様々な社会問題を指摘しました。そして今後、中国が追求すべき

ことは、輸出最優先の経済を見直し、内需を拡大し、国際社会や自然環境との調和による持続可能な経済成長を図ることであると主張。またその点で、中国は日本の省エネや高齢化対策、バブル経済の崩壊等の経験を「鑑」として謙虚に学ぶべきと述べました。来年には北京五輪、2010年に

は上海万博が控える中国。ますます政府、民間レベルの交流も盛んになると述べたうえで、今後はアジア全体のために、日中両国はパートナーとして友好関係を続けていかななくてはならないと結びました。



▲ 高橋克秀准教授

パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、高橋克秀准教授(神戸大学大学院経済学研究科)のコーディネートにより、有識者4人が、経済、政治、民間などさまざまな分野から日中関係強化の必要性を解説しました。

深川由起子教授(早稲田大学政治経済学術院)は、「日本にとって、巨大な投資先である中国の発展は不可欠である。だが、グローバル化を丸のみして発展を続ける中国に対しては、かつての先進国の経験が役に立たない。日本が中国とともに問題の解決策を探り、『日本と一緒にやればいいことがある』という成功体験を多くの中国人に持ってもらうことが大切である」「雇用の問題は、成長率7%といった数字よりも、生産性の高いビジネスをいかに選択するかが重要」と述べました。



▲ 深川由起子教授

製造業を通じてこそ幸せな生活があると伝えて欲しい」と語りました。



▲ 谷野作太郎氏

谷野作太郎氏(元駐中国大使・財団法人日中友好会館副会長)は、「現在の日中関係の好循環はほかならぬ日本のため、そして、中国、アジア、世界のためである。政権の中核にある人々が気概をもってそれを本物にしていきたい。さらには、グローバルな問題に日中が『共働』することが大切だ」「日中の幅広い関係構築には観光に力を入れることが大切。兵庫県でも、地域限定通訳案内士試験を導入し、中国人観光客に対するガイドを充実させることを望む」と語りました。

五百旗頭真氏(当機構 副理事長兼研究調査本部長)は、「内陸部と沿岸部の格差是正が切実な中国は平和的発展主義を真剣に求めている。その観点から、中国は日本の協力を必要としている」「日本は日米同盟に加えて日中協商を結び、中国とともにアジアの問題について共同議長を務めるとよ



▲ 五百旗頭真氏

い。さらには、日米中の首脳が定期協議を持つのもよい」と今後の日本と中国の連携のあり方について述べました。

また、フロアからは「中国やアジアで重要な意味を持っているはずの日本の中小企業に元気がない。どのような発想の転換が求められるのか」という質問がありました。これに対して鄭氏は、「日本人は自分で『元気がない』と思い込んでいるだけだ。日本のものづくりは世界一。日本の製造業が中国市場に参入すれば中国人も日本人も幸せになると思う」

また、樊氏からは、「中小企業が、大企業の後ろについて中国市場に参入するのではなく、発想を転換して独自に事業を展開すればよい。実際にもその事例はある」とのコメントがありました。

シンポジウムを通じて、今後の日中間における連携や、東アジアを始め世界におけるより一層の交流の大切さについて理解を深めることができました。この議論の成果については、当機構の今後の調査研究や、様々な事業の展開に役立てていきます。

研究成果を、防災の最前線に生かすために 人と防災未来センター18年度研究の中から

人と防災未来センターでは、我が国の防災上の課題を的確にとらえ、行政や民間における防災施策や災害対策に役立つような、実践的な防災研究を実施しています。

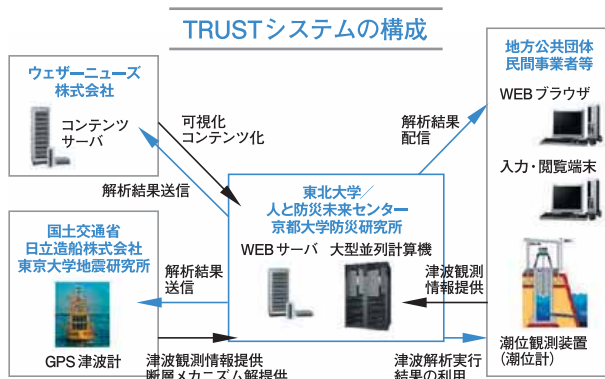
平成18年度は27のテーマについて研究を進めています。その中から、これから行政が取り組むべき課題と密接にかかわる3つの研究について紹介します。

TRUSTシステムの開発

近い将来、南海・東南海沖でプレート境界型の大地震が発生することが想定されています。その際には、中部地方から九州地方まで広域的に大きな揺れが観測され、また大きな津波も太平洋沿岸部を襲うことが予想されています。このような地震が発生したときには、複数の自治体で情報などを共有し、連携して災害に対応する事が不可欠です。

本研究では、巨大地震津波災害の事前及び津波発生時の即時的被害予測と情報共有による、連携した災害対応を支援する事を目的とした、TRUST (Tsunami disaster Response with Unitive Strategies) システムの構築をおこなっています。

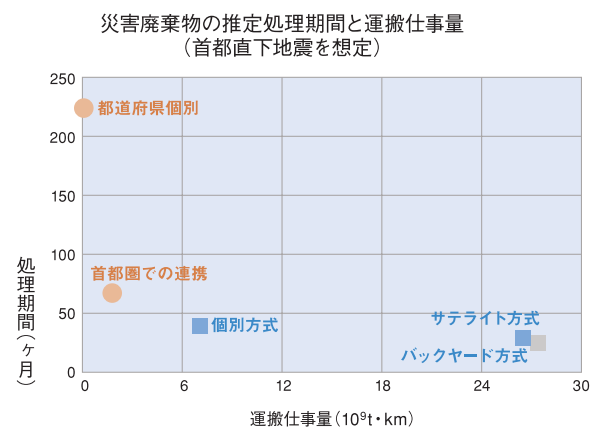
※津波被害予測シミュレーションアーキテクチャの開発は、大都市大震災軽減化特別プロジェクト(代表:河田恵昭)による研究成果の一部です。



災害廃棄物処理の広域連携

平常時の一般廃棄物排出量からみた災害廃棄物発生量を用いて、首都直下地震における災害廃棄物に対するわが国の災害対応力を明らかにしました。その結果、首都直下地震時の災害廃棄物は、被災地域だけの問題ではないことを示しました。

また、首都直下地震における災害廃棄物の広域連携について数値計算を行いました。その結果、首都圏のみでの連携では、その処理に必要な期間は約6年と算出されましたが、都道府県の枠を超えた全国連携による災害廃棄物処理に必要な処理期間は、1年10か月と推定されました。つまり、首都直下地震における災害廃棄物対策では、都道府県間を越えた広域的な連携が重要となることを示しました。



災害復興公営住宅団地に関する研究

阪神・淡路大震災では、被災者の居住空間の移動(避難所⇒仮設住宅⇒恒久住宅)に伴うコミュニティの解体によって多くの問題が発生し、それらへの対応策として、様々な被災者支援施策が検討・実施されてきました。

本研究では災害復興公営住宅(全数)を対象として、居住者(個々の被災者)・自治会代表者・団地の施設環境・団地外部について複数の調査を実施。個々の被災者が「生活復興」という「目的」を達成するにあたって、団地の持つコミュニティとしての機能や上述の被災者支援諸施策が与えている影響・効果について分析しました。

その成果として、コミュニティや人づきあい、震災に対する意味づけが復興感を高める要素として大きな価値を持っていること、小規模な団地ではコミュニティ活動の停滞がみられること、以前に比べ家にこもる時間が増加した割合が高いこと、LSAやSCSといった高齢者支援施策が生活復興に効果的であることなど、適時性のある成果とともに、今後の災害復興に資する知見が多く分析されました。

新潟県中越沖地震

現地支援活動報告① 人と防災未来センター

災害状況・対応の調査を通じ 被災地の早期復興に協力

2007年7月16日(月)午前10時13分頃に、新潟県上中越沖の深さ17kmを震源とするマグニチュード6.8の地震が発生しました。この地震により、新潟県上中越地方及び長野県北部を中心に強い揺れが各地を襲い、新潟県の長岡市、柏崎市、刈羽村と長野県の飯綱町で震度6強を、新潟県の上越市、小千谷市と出雲崎町で震度6弱を観測するとともに、地震発生直後には、新潟県内の沿岸に津波注意報が発令されました。

この地震により、死者11名、負傷者1,987名、住家全壊1,057棟、住家半壊1,771棟などの被害が生じる地震災害となりました。(8月1日現在)



新潟県災害対策本部会議

人と防災未来センターでは、地震発生当日の7月16日から先遣隊を派遣するなど、河田恵昭センター長をはじめとする5名の職員を派遣しました。現地の被害状況と対応状況等の調査を行うとともに、17日夜9時30分から新潟県庁で開催された災害対策本部会議にオブザーバーとして出席し、河田センター長が調査概要の報告及び今後の対応の留意点などについて意見を述べました。

今回の調査内容は以下の通りです。

老朽家屋に被害集中、 影響が全国に波及

建物被害の特徴として、増改築等により不整形な形状の木造住宅、築年数の経過した土蔵、葺き土で固定した瓦屋根の老朽家屋に被害が集中していました。その一方で、比較的新しい住宅はほとんど被災しておらず、市街地全体が甚大な被害を受けているのではな

く、建物被害は点在していました。

また、新潟県の一部地域の災害ではありますが、柏崎刈羽原発の停止による東京の電力不足の懸念や、自動車部品工場の被災による全国での自動車生産ラインの停止など、その影響が全国に波及することが明らかになりました。今後の災害でも、思わぬ影響が全国に波及する可能性に注意すべきです。



屋根が崩れ落ちた酒蔵の被害

夏場の避難所の健康管理に 課題



避難所となった柏崎小学校体育館

避難所の一つである柏崎小学校の体育館には、多くの避難者が集まっていました。体育館の床には通路となるスペースが空けられて、トイレ等への避難者の移動がしやすいよう配慮が見られました。また、外には仮設給水栓が設置され、手洗い用にペットボトルの水が置かれるなど断水への対策が実施されていました。しかしながら、今後本格的な夏を迎えるため、脱水症や熱中症、食中毒など避難者の健康管理に十分に配慮する必要があります。

過去の経験を生かすことが 不可欠に

2004年の新潟中越地震の復興プロジェクトが進行中です。その経験・教訓を生かして、効果的な施策は地域活性化に活かしていくことが求められます。

新潟県庁では、中越地震の反省と教訓を生かして全庁的横断的な事務局運営が行われていたほか、県内の小千谷市や石川県輪島市の職員が柏崎市の応援に入るなど、過去の災害の経験を生かした被災地間の助け合いや災害の経験知の共有がみられました。

今後とも今回の災害対応等に関する調査を行い、被災地の一日も早い復興に協力していきます。

新潟県中越沖地震

現地支援活動報告② こころのケアセンター

3年前の経験が生きた「こころのケア」対策

現地の被害状況・対応を把握

新潟県中越沖地震被災地の「こころのケア」に係る支援調整等のための先遣隊として、当センター医師と精神保健福祉士が兵庫県障害福祉課職員とともに、7月18日から20日の3日間にわたり現地を訪れました。

柏崎市内にある2つの精神科病院ではすでに機能を回復していました。また近隣の精神科医療機関は、交通手段を絶たれて通院できない患者に対し、送薬を行うなど柔軟な対応を始めていました。新潟県立精神医療センターが24時間体制で緊急時の受け入れ体制を敷き、被災地周辺病院もすでに後方支援体制に入っていました。

柏崎市内はようやく電気のみが復旧したところで、市内各地の避難所には約5,000名の被災者が避難していました。これらの被災者に対する「こころのケア」としては、医師、看護師、ソーシャルワーカー、臨床心理士等の専門家で編成した「こころのケアチーム」が巡回を開始していました。

また3年前の災害後に教訓を生かして作成された「こころのケアマニュアル」にもとづき、新潟県障害福祉課と精神保健福祉センターが中心になってケア活動体制が組まれていました。

迅速な「こころのケア」体制整備

被災者に対する「こころのケア」の拠点は、柏崎市茨内地域生活支援センターに設置され、一般医療チームおよび保健活動の活動拠点と連携する方向で調整が行われていました。巡回にあたる「こころのケアチーム」も複数の県内支援チームで当面のスケジュールが組まれていました。またすでに、「こころのケアに関する電話相談窓口(ホットライン)」



救援活動の拠点となった柏崎市役所



こころのケア対策について新潟県泉田知事と面談

も開設されていました。

こころのケアセンターは、3年前の新潟・福井豪雨災害、中越地震災害の折にも新潟県で支援活動を行っています。3年前はこれら一定のケア体制を組むまでに1週間以上かかっていましたが、今回は発生から3日目でこの体制整備が行われています。これら新潟県の動きは非常に迅速かつシステムティックなものとなっていました。

中長期的な視点で専門的支援を

上述のような被害の規模や新潟県の活動方針をふまえ、兵庫県では中長期的な視点での支援を考えています。新潟県関係者からも同様の要請を受けたところです。具体的には、支援者のサポートや専門家の研修等の専門的支援が可能であると思われるため、今後適宜情報交換を重ねつつ、その時期を見極めていきたいと考えています。

HAT神戸 掲示板

兵庫県立美術館

「兵庫県立美術館 2007年度 コレクション展Ⅱ」

- 会期：平成19年7月7日(土)～11月18日(日)
- 観覧料：一般500(400)円 大・高校生400(320)円 中・小生250(200)円
()内は前売および20名以上の団体割引料金
- 展示内容：同美術館のコレクションより最新の収蔵品を含む約200点を出品。小企画「美術の中のかたち——手で見る造形」。アイマスクを着用して、作品にじかに手で触れる“山村幸則「手ヂカラ 目ヂカラ 心のチカラ」展をあわせて開催。

川村記念美術館所蔵 巨匠と出会う名画展

- 会期：平成19年7月28日(土)～10月8日(月・祝)
- 観覧料：一般1,200(1,000)円
大・高校生900(700)円 中・小生500(300)円
()内は前売および20名以上の団体割引料金
- 展示内容：優れたコレクションで知られる川村記念美術館の所蔵品を展示。印象派からアメリカの現代美術にいたる巨匠たちの作品のほか、レンブラントの肖像画や日本近世の屏風など約65点。



ルノワール「水浴する女」

◎休館日／月曜日(祝日の場合は翌火曜日) ◎開館時間／10:00～18:00
(金・土曜日は午後8時まで) 入場は閉館の30分前まで
TEL: 078-262-0901 URL: <http://www.artm.pref.hyogo.jp/>

日本赤十字社兵庫支部

赤十字の活動推進ポスター作品を募集

【作品テーマ】

「わたしだったら、どんな人助けができるかな？」
～わたしにできること。
みんなの暖かい心が赤十字を支えています。～

兵庫県内の小・中学生を対象に、赤十字の活動推進ポスター作品を募集します。作品は、国際活動、災害救護活動、医療活動、献血など赤十字の活動を紹介するポスターを描いてください。平成19年9月12日(水)必着。詳しくは下記まで問い合わせてください。

●日赤兵庫支部
企画・施設課
TEL: 078-241-8920
URL: <http://www.hyogo.jrc.or.jp/>



情報ひろば

学術交流本部

平成19年度21世紀文明研究セミナー 受講者募集

当研究機構の研究テーマや、平和の技術に関する高度な専門知識を伝える講座「21世紀文明研究セミナー」を開催します。ご希望の講座ごとに受講できます。

- 時期：9月～2月（前期：9月～11月、後期：12月～2月）
- 場所：県立神戸学習プラザ（神戸交通センタービル4階）

期	区分	コース名	開催日時
前期	平和の技術	環境コース	9/19～11/28の各水曜日 (計11講座) 15:30～17:00
		防災支援コース	9/20～11/29の各木曜日 (計11講座) 18:30～20:00
		「HAT HOT発信」特別講座(芸術関連)	10/10～11/14の各水曜日 (計6講座) 15:30～17:00
後期	平和の技術	保健・医療コース	12/4～2/26の各火曜日 (計11講座) 18:30～20:00
		多文化共生社会コース	12/11～2/26の各火曜日 (計11講座) 15:30～17:00
		Hem21研究公開講座	12/19～2/27の各水曜日 (計8講座) 15:30～17:00

- 定員及び受講料：1講座あたり約40名（先着順）、無料
- コースと開催日（講義時間は90分）
- 詳しくは同セミナー事務局（学術交流本部交流推進課 TEL:078-327-4380）へ。

大学連携「ひょうご講座」受講者募集

県内4年生全大学等と県が連携し、さまざまな分野におけるアカデミックで専門的な大学教育レベルの講座を広く提供します。生涯学習の場としてご利用ください。

- 時期：秋期（9月上旬～11月下旬）
- 時間：平日（火・水・木・金） 夜間18:30～20:00
土曜13:30～15:00
- 回数：8～12回（毎週1回、同一曜日に実施）
- 場所：県立神戸学習プラザ（神戸交通センタービル4階）
- 科目名：（16科目・講義時間は90分）

「高齢者の介護ケア（福祉と看護）」
「身近なIT・最新のIT」
「宗教と民族紛争の歴史」
「健康管理を考える－メンタルヘルス・生活習慣病－」
「日本と韓国、北朝鮮関係の推移」
「続・日本の古典を楽しむ－王朝文化とその広がり－」
「新・幸福論－価値多様化社会を自分らしく生きるために－」
「生活の中の社会福祉講座「豊かさのカタチ」」
「健康にエイジングー生活とくすりー」
「人と生活と環境－衣・住環境から都市環境まで－」
「宇宙と地球の不思議」
「BRICs経済と日本の将来」
「健康に生きる－あなたの心と体が健康であるために－」
「地名物語II－地名にみる日本のやしの旅－」
「外国語を通して日本語を知る」
「総合的かつ実践的に学ぶ英語と英米の文化と社会」

- 定員：1科目あたり約40名（先着順）
- 受講料：10,000円（8回）、12,000円（9回・10回）、15,000円（11回・12回）
- 募集期間：平成19年8月31日（金）まで
- 申し込み・問い合わせ先：
ひょうご大学連携事業推進機構事務局
〒650-0021 神戸市中央区三宮町1-10-1
(神戸交通センタービル4階)
TEL:078-392-0660 FAX:078-392-0071
URL: <http://www.hyogo-al.gr.jp/kouza/>

人と防災未来センター

夏休みイベント

夏休み期間中、子ども達を対象に、多彩なイベントを開催します。防災・減災について、楽しく学べるプログラムや家族で楽しめるワークショップを実施します。



防災未来館「夏休み防災未来学校2007」

- 参加無料
- 日程：8月25日（土）

時間	プログラム	対象・定員
10:00～11:30	キッズ防災バッグをつくろう!	小学生30名
13:00～15:30	集合!いろいろな防災ゲームで遊ぼう!	自由参加・随時受付
16:00～18:00	セッション『防災学びの現在を語ろう』	高校生以上50名

- 日程：8月26日（日）

時間	プログラム	対象・定員
11:00～12:00	知っておこう、世界の防災～取り組みの今～	小学生以上100名
13:30～14:15	河田恵昭センター長 基調講演	中学生以上100名
14:30～15:00	DRI研究員 レクチャー1 災害で起こること	
15:15～16:00	DRI研究員 レクチャー2 復旧・復興に学ぶ	
16:15～16:45	DRI研究員 レクチャー3 防災の未来へ	

ひと未来館「色、いろいろひと未来ワークス」

- 参加無料 ※ただし、「ひと未来館」への入館料が必要です。
- 時間：各日14:00～15:00 ● 定員：各日20名

ワークショップ	日程
手作りのリズム楽器で、ハートビートセッション!	9/1(土)・2(日)
こころの色。わたし色の万華鏡をつくろう!	9/8(土)・9(日)・15(土)・16(日)・17(月・祝)

- 先着順。定員になり次第受付終了。受付後、参加票をFAX・Eメール等で返送します。空きがあれば当日参加もできます。
- 申し込み・問い合わせ先：
阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
TEL:078-262-5502 E-mail: hhc@dri.ne.jp
URL: <http://www.dri.ne.jp>

Hem21NEWS vol.5

平成19年8月発行



(財) ひょうご震災記念21世紀研究機構

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
(人と防災未来センター
ひと未来館6階)

▼URL
<http://www.hemri21.jp>

当機構は、事務局・研究調査本部、人と防災未来センター、学術交流本部、こころのケアセンターで構成しています。

- 事務局
TEL 078-262-5585
FAX 078-262-5587

- 研究調査本部
TEL 078-262-5570
FAX 078-262-5593

- 人と防災未来センター
TEL 078-262-5050
FAX 078-262-5055

- 学術交流本部
〒650-0021
神戸市中央区三宮町1-10-1
神戸交通センタービル4階
TEL 078-327-4380
FAX 078-392-0071

- こころのケアセンター
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL 078-200-3010
FAX 078-200-3017

ニュースレターに関するご意見・ご感想を事務局までお寄せ下さい



印刷紙工業部
ISO 14001 認証取得

印刷紙工
事業部

包装
事業部

高級美術印刷から包装まで

- 各種美術印刷並びに一般紙製品加工
- 食品並びにトイレタリー包装



株式会社 大伸

本社：〒652-0804 神戸市兵庫区塚本通4-1-19
TEL:078(575)6839(代) FAX:078(575)5075
URL <http://www.daishin-gr.co.jp>